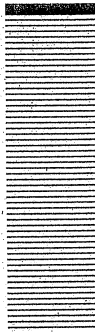


TYPE OF INDUSTRY



中小・ベンチャー・中小政策

激動の経営

山形県北東部に位置する最上地域は、県内でも屈指の降雪地として知られる。少子高齢化の波が加速する中、持続性のある地域づくりが大きな課題でもある。

「魅力ある企業が少

山形メタル

①

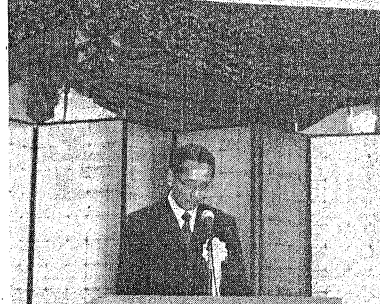
自立した働き方
庄司が同社の前身と

しても多く地域に存在することが地域全体の活力につながる」。最上地域の中心都市でもある新庄市に本社を置く金属加工を手がける山形メタル社長の庄司正人は、今春に叙勲の栄誉を受け、あらためてこう思ったという。

地域に役立つ会社へ

なる「大滝電機」を出身地の山形県真室川町で立ち上げたのが1974年（昭49）4月。23歳での創業だった。地元の農業高校を卒業後、当初は家業の米づくりに励んだ。しかし同町を含む最上地域で農業、冬期間は首都圏などへの「出稼ぎ」という働き方が当たり前だった。結婚してもことうした生活を続けるの難しさを抱き続けた。「いやいや」を繰り返しながら、数年前、この疑問を解消した。立派な働き方を目指すようになった。思考したその答えが会社設立だった。きっかけは親戚からの助言だった。当時地元に進出していた音響

株式会社 山形メタル 記念・新工場落成



新庄市内で開かれた創立40周年の祝賀会であいさつする庄司社長

板金から塗装 一貫生産

機器関連会社がスピードカー振動板など関連の金属加工で下請けを探しているという。それを聞いた庄司は「出稼ぎから解放される。それほど深くは考えなかった」。それから半年間ほどの研修を経て創業の準備を進めた。創業当初は10人程度で始まったという。

大型投資を決断

今では工作機械向けなどの板金加工や建材事業を手がける山形メタル。2024年に創立50年を迎える。現在社員数も約120人規模になった。大きな転機となったのが創立40

年を迎えた節目の年。創業の地である真室川町を離れ、14年に新庄市の新庄中核工業団地に全面移転し、板金から塗装までの一貫生産体制を構築した。いままでの塗装設備は一新。新工場は総額約11億円を投じて完成した。当時の年商と同規模の大型投資に踏み切った。

同年9月に開いた新工場見学会と創立40周年の祝賀会には、取引先の関係者ら300人近くが出席。祝賀会の席で庄司は「新たなステージに踏み出した」と力強く宣言した。

50周年に感慨

創立50周年を目前にする山形メタル。コロナ禍の中でも、完全無機塗料を用いた独自の建築用金属パネルの量産化技術の開発にも着手。試作ラインの構築も終えた。「よくここまでよくやってきた」。庄司は現状を静かに見つめている。

（敬称略）

▽所在地 山形県新庄市大字福田字福田山7-11の17
▽代表者 庄司正人氏
▽創業 74年（昭49）4月
▽資本金 1900万円
▽従業員 約120人
▽売上高 13億5000万円（23年3月期）